

事業名 多様性とにぎわいのある、豊かな地域づくり

目的 竹林整備により、地域環境の改善の他、共同作業による顔の見える関係性構築の一助ともなり、地域で安心して生活できる基盤を調える。また、竹林整備で伐採した竹を地域資源として活用し、多世代の交流拠点としての神社の役割を復興させるため、竹の利活用方法の紹介、鈴緒や子ども神輿の作成に多くの人が参加するきっかけをつくる。本事業を通じ、多様な関係人口の増加、地域ぐるみの子育て環境の整備、地域の祭りににぎわいを取り戻すことで、地域の活性化を図る。

事業概要

【広報】チラシ作成（配布先：図書館、公民館、子育て支援センター、店舗）まんまるウェブサイト、SNS

- | | |
|----------|------------------------------------|
| 竹林整備 | ・電動工具を使わず、ノコギリで竹林整備 |
| | ・整備で出た竹を利用して、竹パンづくり等 |
| 鈴緒づくり | ・精麻縫り体験 |
| 子ども神輿づくり | ・竹や森の材料を集めて、骨組みづくり、飾りつけをし、子ども神輿の作成 |



成果と課題

SNSでの告知、チラシ配布により、淡路島島内外へ広く参加を呼びかけ実施。風通し、見通しのよい、安心して暮らせる地域環境づくりへの一步を踏み出すことができた。電動工具を使わなくとも、竹林整備が可能であることを実証し、参加者から自分の家の周りでも整備に取り組みたいとの声が挙がった。整備した竹の利活用方法を紹介し、竹林整備が、作業ではなく楽しんで参加できる交流の場となった。多世代の交流で関係人口を増やし、伝統行事への関心を高め、地域資源の再認識の機会ともなった。他の地域の伝統行事についても話題となり、その活性化と継承が地域の活性化の課題であることがわかった。

今後の展望

今回の助成金で購入した道具類を活用して、今後も地域内の他の竹林整備を進めていく。本事業で、竹の活用法をいくつか提案できたが、使用する竹の量は限定的であった。そのため、伐採した竹をより多く利活用できるように、無煙炭化器やチップターの購入やレンタルの検討が必要。また、その設備投資費用の捻出について検討が必要である。

今回の作業場に椅子などの準備がなく、急遽コンテナで対応したが、高齢者でも活動に参加しやすくなるように、公衆トイレの設置やベンチの増設などを地域で検討するとともに、行政にも協力を仰ぎ、にぎわいのある地域になるよう今後も活動を続けていきたい。